



# ちょっといい話

シリーズ⑤

## 心の時代を迎えた今、道徳は注目されています

「笠松町道徳のまちづくり条例」が平成19年12月に制定されてから、今年で7年目を迎えます。昨年、町民に「道徳のまち」のアンケートを調査しました。  
(平成25年12月調べ:回答者391人)

- オレンジTシャツを着用して活動している様子を見たことがある人 72%
- あいさつ運動に参加したり、見聞きしたことがあったりする人 68%
- 道徳のまちづくり条例を知っている人 42%  
「道徳のまち笠松」を知っている人が少しずつ増えています。

条例の目的は何でしょう?

条例の第1条には目的として「道徳的風土及び人づくりを進め、道徳心、マナー及びルールを大切に生きた生きがいと誇りのもてるまちづくりをめざすこと」と記されています。

この目的を達成するために、町には2つの組織があります。「道徳のまち笠松委員会(7人構成:浅野弘光委員長)」と「道徳のまち笠松推進会議(22人構成:葛谷昌彦会長)」です。委員会が活動方針を決め、推進会議がその方針に従って

さまざまな活動を企画し、実践しています。

主な活動は、あいさつ運動(年3回)、トンボ天国の環境美化、国道沿いのゴミの一掃、鮎鮎街道ウォークでのおもてなし、あいさつ絵本や情報紙の発行などです。

道徳的な実践を行うことで、やさしい心が一層育ちます。ぜひ、「道徳のまち笠松」の活動に参加し、生きがいと誇りのもてるまちづくりをしましょう。



道徳のまち笠松委員会



道徳のまち笠松推進会議

身近で「ちょっといい話」がありましたら、中央公民館へ電話、FAX、郵送、メールなどでご連絡ください。お待ちしております。  
☎388-3926 FAX388-3233  
メールアドレス:kyouikubunka@town.kasamatsu.lg.jp

### かきまつの民話「昔むかし」

#### 田代の龍③

おどりは始めて一ときぐらいたったとき、

グルル、ル、ル。グルル、ル、ル。

という、うなり声が、おどりの輪の上にとつぜんひびきわたった。

「なんやか、気味が悪いな。」

「いったいどうなるんじや。」

村人たちは、まささおになつて、おどりをやめた。

ところが弥助だけは、

「うん、あの声だ。龍の声だ。願いが通じたのじやな。」

と、人々におどりをうながした。おどりをやめていた村人たちは、弥助につられるように、おどおどしなからまたおどりはじめた。

すると、どうしたことか、月明かりの空にひとすじの黒雲が広がり、あたりはしだいに暗くなってきた。そのうちに、いなびかりが走り、ゴロ



ゴロ、ゴローンと、あたりをつんざくような音がどろどろした。そして、プツンプツンと雨が降り出した。

「わあ、雨じゃ、雨じゃぞ。」

「わしらの願いを龍さまがきいてくださったぞ。」

青ざめていた村人たちも、やっとわれにかえった。喜びで顔をくしゃくしゃにしなから、まるで気がくるったように、大つぶの雨の中をおどり続けた。

このことがあつてから、村人たちは、おぼけ松の回りにいつもおそなえをするようになつた。そして、龍を八幡さまの神様のようになつた。

(つづく)